

2020年度（2021年3月期） 第3四半期 決算説明会

2021年 1月 28日
セイコーエプソン株式会社

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新製品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 事業利益について

事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て 比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

年号：断りが無い限り、会計年度を示す

- ご説明のポイント
- 第3四半期実績
- 2020年度通期業績予想
- 株主還元
- 持続的成長に向けた取り組み

第3四半期 実績

- 売上収益 : 2,788億円 (対前年同期 10億円減収)
 - 地域・商品ごとに濃淡はあるものの、COVID-19影響で落ち込んだ需要の回復が進む
 - 需要に対して、供給不足が継続
- 事業利益 : 311億円 (対前年同期 135億円増益)
 - 戦略商品の拡大、在宅印刷需要継続によるインク販売増加、販売価格の維持
 - 費用抑制を徹底
- 四半期利益 : 160億円 (対前年同期 37億円増益)
 - 事業利益の増益により各段階利益で増益
 - その他営業費用にウェアラブル機器事業に減損損失(36億円)を計上

通期業績 予想

- 売上収益 : 9,800億円
(対前期 636億円減収 対前回予想200億円上方修正)
 - 第3四半期までの販売回復を反映
- 事業利益 : 500億円
(対前期 91億円増益 対前回予想150億円上方修正)

- 本日のご説明のポイントはご覧のとおりです。
- 詳細は、次のスライド以降でご説明します。

- ご説明のポイント
- **第3四半期実績**
- 2020年度通期業績予想
- 株主還元
- 持続的成長に向けた取り組み

2020年度 第3四半期決算 | ハイライト

EPSON
EXCEED YOUR VISION

	2019年度		2020年度		対前年同期		
	(億円)	Q3実績	%	Q3実績	%	増減額	増減率
売上収益		2,798		2,788		-10	-0.4%
事業利益		176	6.3%	311	11.2%	+135	+76.3%
営業利益		176	6.3%	246	8.8%	+69	+39.3%
税引前利益		173	6.2%	228	8.2%	+54	+31.6%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益		122	4.4%	160	5.8%	+37	+30.9%
EPS*1 (円)		35.47		46.42			
為替レート (円、指数)	USD	¥108.72		¥104.48			
	EUR	¥120.35		¥124.51			
	その他通貨*2	100		94			
*1 EPS: 基本的1株当たり当期利益							
*2 その他通貨の各レートを為替レートを100として加算平均した値について、前年同期を100とした指数							
		前年同期に対する 為替影響額 (億円)		USD	EUR	その他 通貨合計	合計
		売上収益		-32	+15	-34	-51
		事業利益		+8	+10	-22	-3

5

- こちらは、第3四半期の実績です。
- 売上収益は、前年同期に対して 10億円 減収の 2,788億円、事業利益は、135億円 増益の 311億円、四半期利益は、37億円 増益の 160億円 となりました。
- なお、その他営業費用にウェアラブル機器事業における減損損失 36億円を計上しています。
- 為替レートは、ユーロは前年同期に対して円安で推移した一方で、USDドルや中南米通貨などで円高となったことで、売上収益はマイナス影響を受けましたが、事業利益への影響は軽微なものとなりました。

■ 売上収益 2,788億円 (10億円の減収)

- 地域・商品ごとに濃淡はあるものの、COVID-19影響で落ち込んだ需要の回復が着実に進む
- 需要に対して、供給不足が継続
 - インドネシア工場での操業停止（9月）影響に加え、物流の混乱（海上輸送コンテナの不足・港湾混雑）が発生
 - ✓ インクカートリッジモデル本体、大容量インクタンクモデル本体、商業・産業IJP、プロジェクターなどに影響
- COVID-19影響
 - 第3四半期には、約150億円のマイナス影響（需要影響、供給影響）

■ 事業利益 311億円 (135億円の増益)

- 大容量インクタンクモデル・インク販売増加、販売価格の上昇などに加え、費用抑制を徹底

- 第3四半期決算のポイントをご説明します。
- 需要は、新型コロナウイルス影響からの回復が遅れている地域や、プロジェクターやウオッチなど、本格的に回復していない商品もあったものの、総じて、大きく落ち込んだ上期からの回復が着実に進みました。
- 売上収益は、需要が回復する一方で、9月に発生したインドネシア工場での操業停止の影響に加え、海上輸送におけるコンテナ不足や港湾の混雑による供給制約があったことで、前年同期並みの水準となりました。
- 事業利益は、主にインクジェットプリンターにおいて、大容量インクタンクモデルやインクの増加、販売価格の上昇などに加え、プロモーションなどをはじめとする費用抑制を徹底したことで、大幅な増益となりました。

■ 四半期利益 160億円 (37億円の増益)

- 事業利益の増益により各段階利益で増益
 - その他営業費用にウェアラブル機器事業の減損損失 (36億円)を計上
 - ✓ 第3四半期までのCOVID-19影響によるウオッチ市場の動向を踏まえ、今後の回復をより慎重に見直す

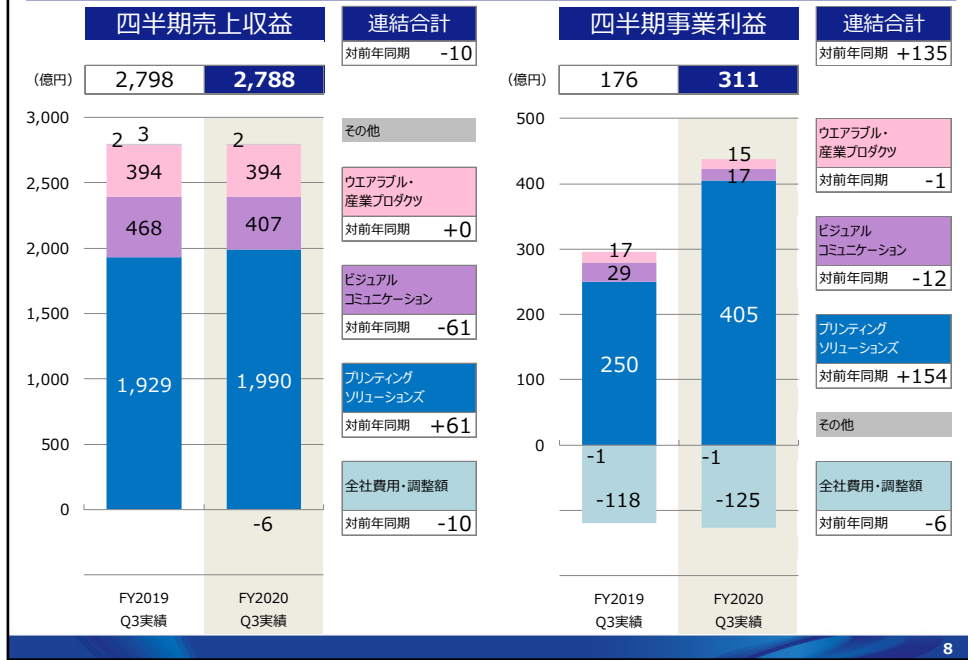
■ 前回予想比

- 売上収益はIJPインクの在宅印刷需要継続や本体の販売価格が安定的に推移したほか、ロボティクスソリューションズやマイクロデバイス他での需要増加もあり予想を上回る
- 事業利益は、売上収益影響に加え、費用抑制影響もあり、予想を大きく上回った

7

- 事業利益以下のポイントをご説明します。
- 各段階利益は、増益となっていますが、その他営業費用にウェアラブル機器事業の減損損失を計上しています。
- これは、近年の市場動向や新型コロナウイルス影響からの回復時期が不透明であることなどを踏まえ、今後の回復をより慎重な前提に見直した結果です。
- ウェアラブル機器事業は、要員転換や効率化を推し進め、より筋肉質な事業体制への転換を進めていきます。
- 経営資源は、より成長ポテンシャルの高い事業領域に再配分し、効率的にエプソンの成長につなげていきます。
- 続いて、前回予想に対する実績についてご説明します。
- インクジェットプリンターの本体販売価格やインク販売が想定を上回ったことに加えて、ロボティクスソリューションズやマイクロデバイス他でも想定以上に需要は堅調に推移しました。
- 在宅勤務・在宅学習印刷の需要は、経済活動の再開に合わせて落ち着きを見せると予想していましたが、西欧や北米などで継続しました。また、中南米やアジアにおいても、在宅印刷需要の動きが見えてきました。
- 商業・産業IJPは、想定通り第2四半期から販売を伸ばしています。
- ビジュアルコミュニケーションは、概ね予想通りとなりました。
- また、ウェアラブル機器事業は、弱含んで推移しました。
- これらの結果、連結合計の売上収益は予想を上回りました。
- さらに、費用抑制も継続したことで、事業利益は予想を大きく上回る結果となりました。

2020年度 第3四半期実績 | 事業セグメント別



- こちらは、事業セグメント別の前年同期比較です。
- 以降のスライドで、セグメント別にご説明します。

2020年度 第3四半期実績 | プリンティングソリューションズ EPSON

EXCEED YOUR VISION

(億円)

プリンティングソリューションズ	2019年度	2020年度	対 為替	
	Q3実績	Q3実績	前年同期	影響額
売上収益	1,929	1,990	+61	-41
プリンター	1,340	1,445	+104	
構成比 オフィス・ホームIJP	85%	88%		
SIDM	6%	5%		
その他	9%	7%		
プロフェッショナルプリンティング	518	504	-14	
構成比 商業・産業IJP	66%	71%		
小型プリンター他	34%	29%		
その他	70	41	-28	
事業間売上収益	-0	-0	-0	
セグメント利益	250	405	+154	-3
セグメント利益率	13.0%	20.4%		

◆ オフィス・ホームIJP販売動向 (社内管理値に基づく指標)		FY19/Q3 実績	FY20/Q3 実績
本体	売上収益 YoY伸長率	-1%	+17%
	現地通貨	+3%	+22%
販売数量 YoY伸長率	円貨	+2%	+2%
	現地通貨	-12%	+5%
インク	売上収益 YoY伸長率	-9%	+6%
	現地通貨	-9%	+6%
オフィス共有IJP ¹⁾	売上収益 オフィス・ホームIJP内 比率 ²⁾	9%	9%

プリンター事業

- ◆ オフィス・ホームIJP
 - ・大容量インクタンクモデルは、需要回復し、販売拡大
 - ・SOHO・ホーム向けI/Cモデル本体は、販売台数は減少したが、モデルミックス・販売価格上昇により増収
 - ・インク販売は、北米・西欧などで在宅印刷需要が継続し増収
 - ・オフィス共有IJPは前年同期並み
- ◆ SIDM
 - ・中国中心に販売減少

プロフェッショナルプリンティング事業

- ◆ 商業・産業IJP
 - ・完成品ビジネスは、前年同期並み。サイネージ・テキスタイル・ラベルで増収、フォト向けで減収
 - ・プリントヘッド外販ビジネスは、中国向け新規採用が進み増収
- ◆ 小型プリンター
 - ・各地で販売停滞

その他

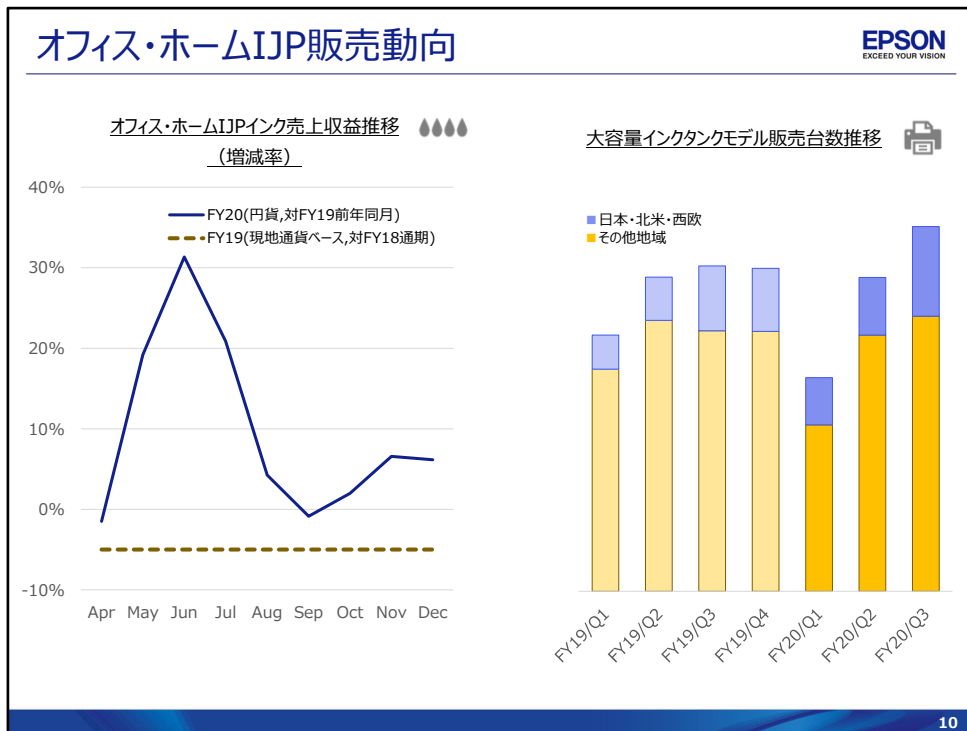
- ・OS切り替えに伴うPC増加があった前年同期からは販売減少

*1 オフィス共有IJP：高プリントボリュームオフィス向けプリンターI/Cモデル、RIPS、LEDの本体・インク、スマートチャージなどの課金や有償サービスを含む

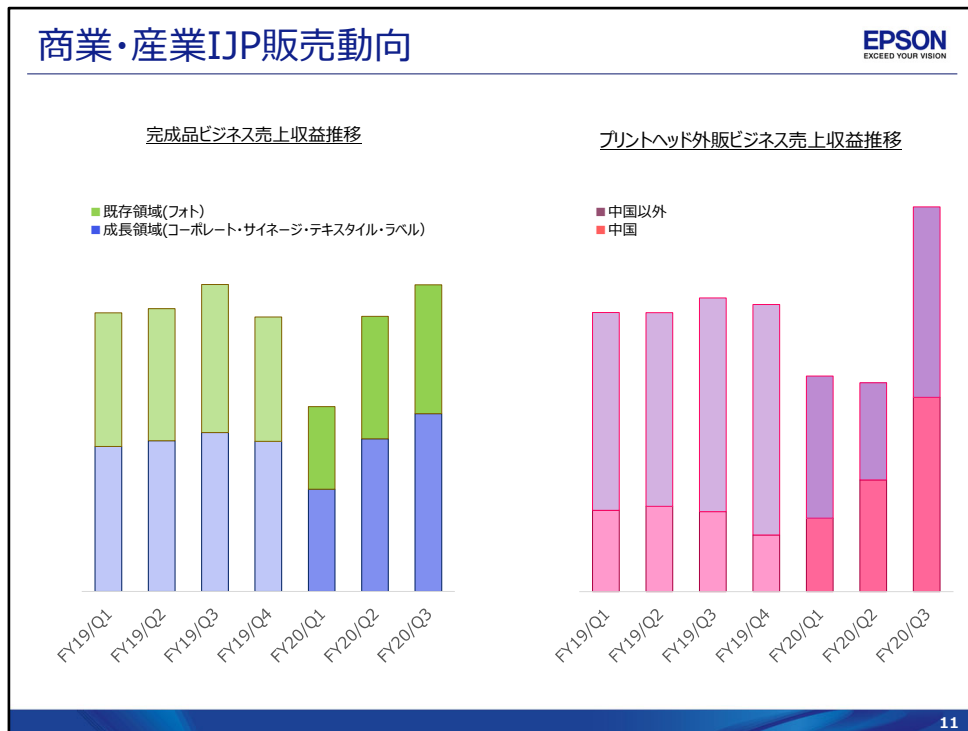
*2 FY20の商品区分変更に伴い、FY19を遡及修正

9

- プリンティングソリューションズの実績はご覧のとおりです。
- プリンター事業は、SIDMが中国を中心に減収となりましたが、インクジェットプリンターが増収となったことで、事業全体で増収となりました。
- 大容量インクタンクモデルは供給不足が継続したものの、エマージング地域のほか、先進国でも販売台数が増加したことに加え、高付加価値モデル追加などのモデルミックス影響や価格維持施策による販売価格の上昇により、増収となりました。
- SOHO・ホーム向けインクカートリッジモデル本体は、供給不足により販売台数は減少したものの、価格の上昇などにより、増収となりました。
- また、インク販売は、欧米を中心に在宅印刷需要が継続し、増収となりました。
- オフィス共有IJPは、新型コロナウイルス影響により、市場が大きく落ち込んでいる中でも、日本や欧州を中心に案件獲得が着実に進みました。
- 納入・設置が滞ったこともあり、本体の売上収益は前年同期には届きませんでした。累計の設置台数も増加していることで、インク販売が増加し、オフィス共有IJP合計では前年同期並みの売上収益となりました。
- プロフェッショナルプリンティング事業は、商業・産業IJPは堅調に推移しましたが、小型プリンターの需要停滞が継続していることで減収となりました。
- 商業・産業IJPのエプソン完成品ビジネスは、ミニラボ向けなどで、お客様での在庫調整があった一方で、サイネージ、テキスタイル、ラベルプリンターなどは、新商品効果もあり、供給不足影響、納入・設置制約を受けながらも増収となり、エプソン完成品ビジネス全体で前年同期並みとなりました。
- プrintヘッド外販ビジネスは、中国メーカーでの新規採用が順調に拡大し、また、既存顧客向けも徐々に回復していることから増収となりました。
- セグメント利益は、特に、プリンター事業で、インクや大容量インクタンクモデルの増収影響、販売価格の上昇に加え、費用抑制に努めたことなどもあり、大幅な増益となりました。
- この結果、セグメント利益に占めるプリンター事業の割合は、7割半ば程度となりました。



- ここで、インクジェットプリンターの販売推移をご説明します。
- 左のグラフは、インクの売上収益の増減率を示したものです。
- 実線が、2020年度の前年同月比の増減率、破線は2019年度の年間の増減率を示したものです。
- エプソンは、大容量インクタンクモデルへのシフトを進めていますので、インクの売上収益は前年度からは減少することを想定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、在宅印刷需要が増加したことで、インクの売上収益は前年度を上回っています。
- ご覧のように、増収率は、6月度をピークに減少に転じ、9月には前年並みとなってきたことから、第3四半期はさらに落ち着きを見せると予想していましたが、需要は継続しています。
- 今後の動向を予想することは困難ですが、テレワークの定着も想定されますので、一定程度の需要は継続すると考えています。
- 右のグラフは、大容量インクタンクモデルの販売台数の推移です。
- 第1四半期は、エマージング地域において、店舗の休業や移動制限などの措置がとられたことで、販売も大きく落ち込みましたが、その後は、店舗の再開や在宅印刷需要の発生に伴い、急回復しています。
- また、日本・北米・西欧などの先進国においても、順調に拡大が進んでいます。
- 第3四半期においては、供給には未だ課題が残りますが、再び前年同期を上回る成長へと回復しています。



11

- こちらは、商業・産業IJPの動向です。
- 左側は、完成品ビジネスを、エプソンにとっての成長領域と既存領域とに分けて、売上収益推移を示したグラフです。
- 商業・産業IJPは、第1四半期は、前年同期から大きく販売が減少しましたが、需要が徐々に回復していることや、成長領域での新商品投入効果などもあり、第2四半期以降は増加基調で推移しています。
- 今後も新商品の投入を予定しており、長期的な視点で、継続的に強化を進めていきます。
- 右側は、プリントヘッド外販ビジネスの売上収益の推移です。
- 上期は低調に推移していましたが、下期から拡販を強化している中国も、既存のお客様が多い日本やその他の地域においても需要は回復傾向であり、第3四半期は、ビジネス全体で増収に転じています。
- プrintヘッド外販ビジネスも、今後の成長をけん引する重要な商品になりますので、さらなる拡大を目指して強化を進めていきます。

		2019年度		2020年度			
		Q3実績		Q3実績		(億円)	
ビジュアルコミュニケーション						対	為替
						前年同期	影響額
売上収益		468		407		-61	-3
セグメント利益		29		17		-12	+2
セグメント利益率		6.3%		4.3%			
◆ プロジェクターの販売動向 (社内管理値に基づく指標)		FY19/Q3 実績		FY20/Q3 実績			
	円貨	-7%		-13%			
本体	売上収益 YoY伸長率		現地通貨	-3%			
	販売数量 YoY伸長率			-12%			
				-4%			-20%

ビジュアルコミュニケーション

◆ プロジェクター

- COVID-19影響により、オフィス向けプロジェクターを中心に市況停滞

		2019年度		2020年度			
		Q3実績		Q3実績		(億円)	
ウェアラブル・産業プロダクツ						対	為替
						前年同期	影響額
売上収益		394		394		+0	-6
ウェアラブル機器		120		79		-40	
ロボティクスソリューションズ		52		68		+16	
マイクロデバイス他		235		253		+18	
事業間売上収益		-13		-6		+6	
セグメント利益		17		15		-1	-3
セグメント利益率		4.4%		4.1%			

ウェアラブル機器

◆ ウォッチ市況停滞により販売減少

ロボティクスソリューションズ

◆ 中国・米州などで販売増加

マイクロデバイス他

◆ 水晶デバイス

- WiFi・PC・ヘルスケア関連などで堅調な需要

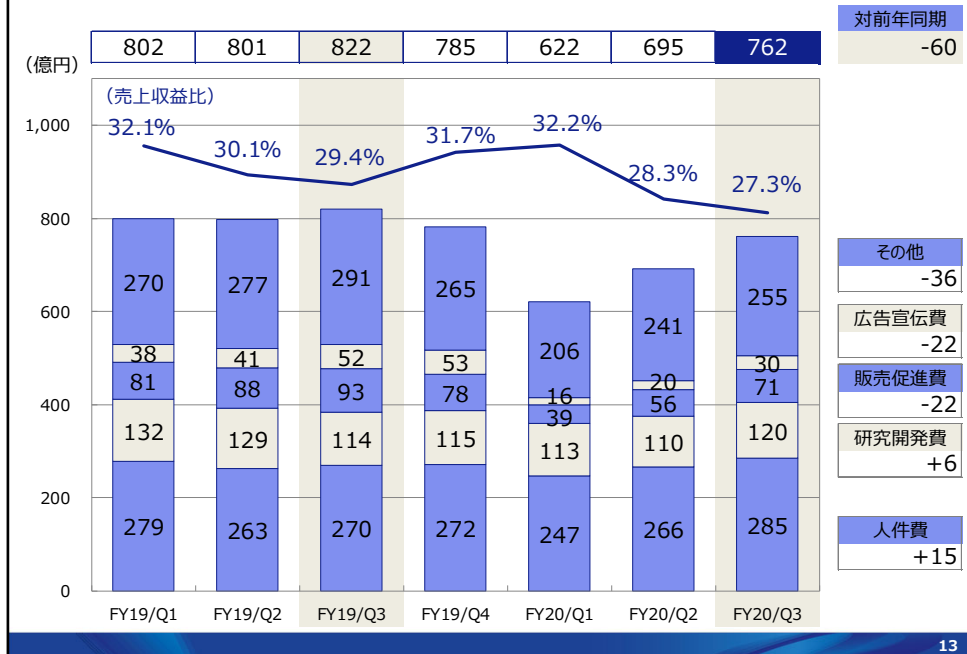
◆ 半導体

- ファンドリ需要堅調

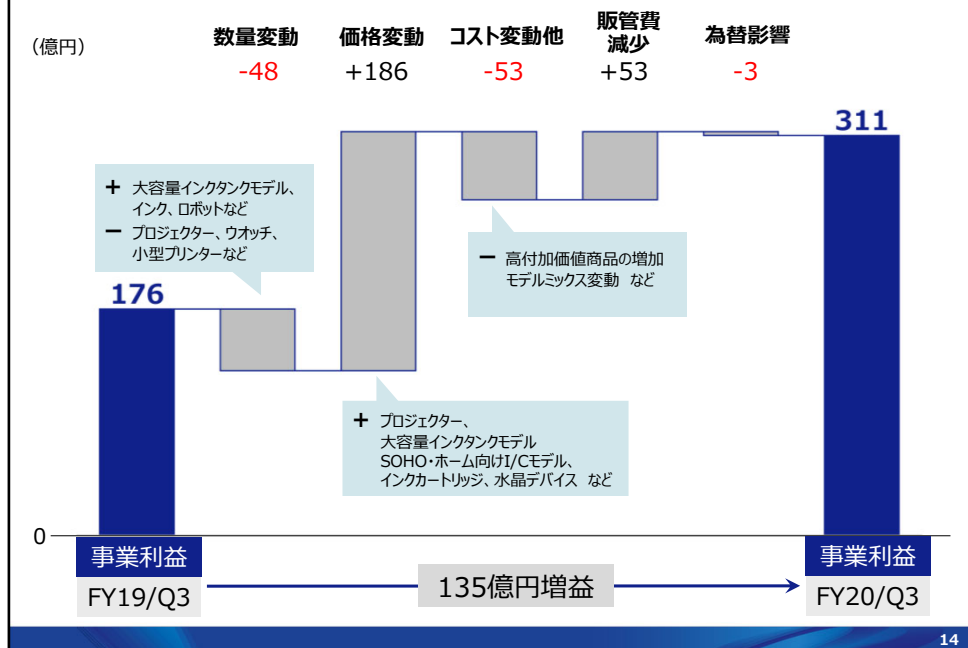
- ビジュアルコミュニケーションは、教育用途向けなどで持ち直しの動きが見られるほか、ホームプロジェクターは堅調に推移しており、上期からは回復が進んでいますが、オフィス向けプロジェクターの需要が停滞するなど、厳しい事業環境が継続しています。
- このような環境の中、固定費構造の見直し、費用抑制の徹底を進めており、第3四半期も、一定の事業利益を残すことができました。
- ウェアラブル・産業プロダクツは、セグメント全体では前年同期並みとなりましたが、事業により濃淡がありました。
- ウェアラブル機器は、海外向け高価格帯ウォッチが増加しているものの、全体としては厳しい市況が継続しました。
- ロボティクスソリューションズは、上期からの好調が継続しました。
- 中国向け電子機器、バッテリー、ソーラーパネル組立用途、米国向けハードディスクドライブ組立、医療関連機器用途などが増加しています。
- マイクロデバイス他は、水晶デバイスで、WiFiや、PC、ヘルスケア向けなどが増加し、また、半導体ではファンドリ需要が堅調に推移しました。
- セグメント利益は、ウェアラブル機器は減益となりましたが、ロボティクスソリューションズの増収影響に加え、水晶デバイスのプロダクトミックス改善や総原価低減の効果、半導体の稼働安定などもあり、セグメント全体で前年同期並みとなりました。

販売費および一般管理費 主要科目別推移

EPSON
EXCEED YOUR VISION



- 販売費及び一般管理費の四半期推移は、ご覧のとおりです。
- 第3四半期は、経済活動の回復に伴い、必要な費用執行も進めていますが、販売促進費や広告宣伝費などは、引き続き、抑制しています。
- 今後は、プロモーション活動の再開を進めていきますが、オンラインを活用するなど、従来に比べると効率化も進んでいますので、費用執行はかつての水準に戻すことなく、引き続きメリハリを利かしていきます。

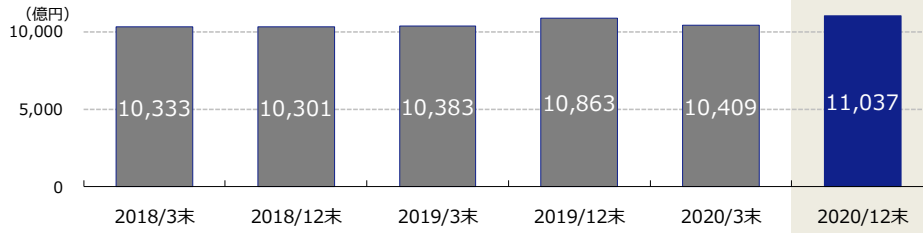


- 事業利益の増減要因分析はご覧の通りです。
- 数量変動は、大容量インクタンクモデル、インク、ロボットなどでプラスとなりましたが、プロジェクター、ウォッチ、小型プリンターなどのマイナスが上回りました。
- 価格変動は、プロジェクターやインクカートリッジ、水晶デバイスのモデルミックス変動影響や、SOHO・ホーム向けインクカートリッジモデル、大容量インクタンクモデルなどの価格上昇などによりプラスとなりました。
- コスト変動他は、商業・産業IJPのような高付加価値商品の増加によるモデルミックス変動などもありマイナスとなりました。

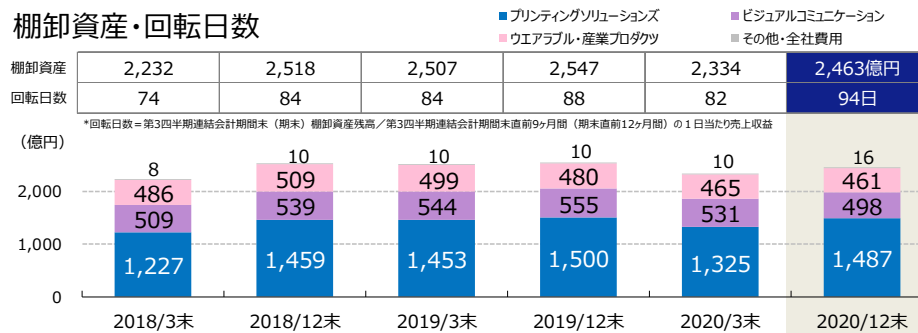
財政状態計算書 主要項目推移

EPSON
EXCEED YOUR VISION

資産合計



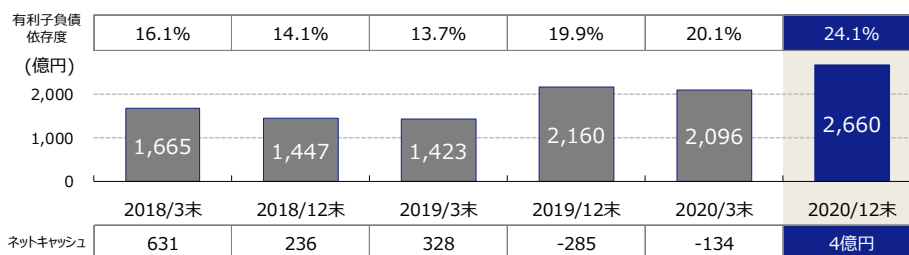
棚卸資産・回転日数



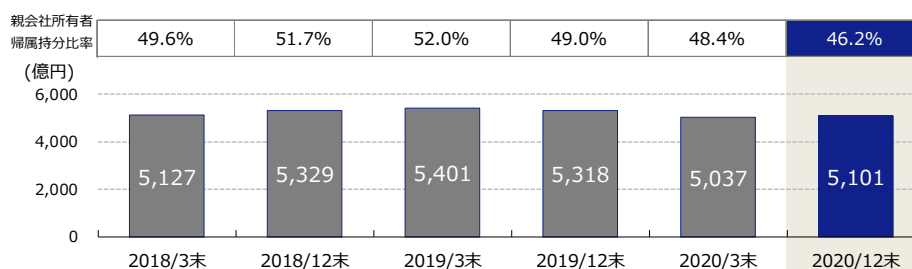
15

- 続きまして、財政状態計算書の主要項目について、ご説明します。
- 資産合計は、前年度末に対して628億円増加し、1兆1,037億円となりました。
- これは、グリーンボンド発行などにより、現金及び現金同等物が増加したことなどによるものです。
- 棚卸資産は、2,463億円となりました。
- 回転日数は、94日と前年同期から増加していますが、上期の販売が大きく落ち込んだことが主な要因です。
- 足元の需要に対しては、プリンターなどでは生産制約の影響や、海上輸送の混乱も継続しており、供給不足の状態が継続しています。
- 今後は、多くの商品では来期に向けて需要も上がっていきますので、販売動向を注視しながら、在庫水準をコントロールしていきます。

有利子負債・有利子負債依存度、ネットキャッシュ



親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率



- 有利子負債は、グリーンボンド発行などにより、前年度末に対して、563億円増加し、2,660億円となりました。
- ネットキャッシュは、プロダクトミックス改善や価格維持などによるキャッシュの回収が進んでいること、継続的に費用を抑制していることなどで、4億円のプラスとなりました。
- 親会社の所有者に帰属する持分合計は、前年度末に対し64億円増加し、5,101億円となりました。

- ご説明のポイント
- 第3四半期実績
- **2020年度通期業績予想**
- 株主還元
- 持続的成長に向けた取り組み

2020年度 通期業績予想 | ハイライト

EPSON
EXCEED YOUR VISION

	2019年度		2020年度				増減額/増減比		
	(億円)	実績	%	10/29予想	%	今回予想	%	対前期	対10/29予想
売上収益		10,436		9,600		9,800		-636 -6.1%	+200 +2.1%
事業利益		408	3.9%	350	3.6%	500	5.1%	+91 +22.4%	+150 +42.9%
営業利益		394	3.8%	280	2.9%	380	3.9%	-14 -3.7%	+100 +35.7%
税引前利益		397	3.8%	240	2.5%	340	3.5%	-57 -14.4%	+100 +41.7%
親会社の所有者に帰属する 当期利益		77	0.7%	80	0.8%	180	1.8%	+102 +132.8%	+100 +125.0%
EPS*1 (円)		22.26		23.12		52.03			
為替レート (円、指数)	USD	¥108.74		¥106.00		¥105.00			
	EUR	¥120.85		¥122.00		¥123.00			
	その他通貨*2	100		92		93			
第4四半期の 為替前提(円)	USD	102.00	為替感応度(億円)*3		USD	EUR	その他通貨 合計	年間為替 影響額見込み	
	EUR	125.00	売上収益		△27	△13	△27	△230	
			事業利益		+7	△8	△12	△40	

*1 EPS：基本的1株当たり当期利益
*2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて加重平均した値について、前期を100とした指数
*3 USD/EURは1円の円高による年間影響額（億円）、その他通貨は1%の円高による年間影響額（億円）

18

- 続きまして、通期業績予想のご説明をします。
- 通期業績予想には、第3四半期の実績が売上収益、事業利益ともに予想を上回ったことに加え、今後の需要回復の見込みを反映しました。
- 一方で、供給不足の継続が見込まれるなど、引き続き予断を許さない状況にあります。
- これらの状況を踏まえ、前回予想から売上収益を200億円、事業利益を150億円、当期利益を100億円上方修正し、
 - 売上収益は、9,800億円、
 - 事業利益は、500億円、
 - 当期利益は、180億円 としました。
- 為替による影響は、前年度に対して、売上収益で約230億円、事業利益で約40億円のマイナスを予想しています。
- なお、ロボティクスソリューションズにおいて、エプソンの強みをより発揮できるロボットに経営資源を集中し、さらなる成長を図るため、ICテストハンドラー事業の譲渡を決定しました。
- 本事業譲渡は4月を予定しており、これによる今期の業績予想へ影響はありません。

- 地域・商品による濃淡はあるものの、需要回復は継続
- 海上輸送のコンテナ不足による物流遅延リスクを加味
- 活動再開に合わせた費用投入を進めつつも、費用抑制は継続

プリンティング ソリューションズ

- ・在宅印刷需要は継続
- ・増産により、大容量インクタンクモデルの販売台数を上方修正
- ・商業・産業IJPは、需要回復が進む

ビジュアル コミュニケーション

- ・需要回復は進むものの、中・高光束プロジェクターの回復は遅れる
- ・費用コントロールを継続し、効率的に収益を上げる事業体質へ

ウェアラブル・ 産業プロダクト

- ・ウオッチ市場は厳しい環境が継続
- ・ロボット、マイクロデバイスは堅調

- 通期業績予想の前提をご説明します。
- 先ほども申し上げたとおり、地域・商品による濃淡はあるものの、需要回復は継続していますが、同時に、供給不足によるリスクも加味しました。
- また、経済活動の再開に合わせた費用投入を進めますが、メリハリを利かせた執行により、費用抑制は継続していきます。

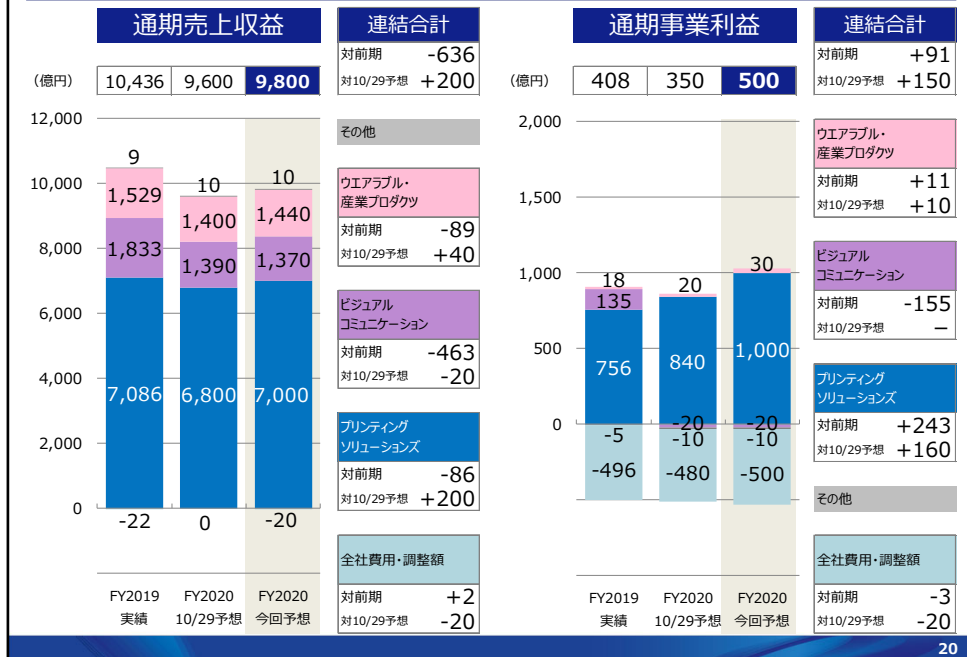
- これらを踏まえた、事業セグメントごとの前提をご説明します。
- 初めにプリンティングソリューションズです。
- 在宅印刷需要は、継続する見込みです。
- インクジェットプリンター本体の供給不足の解消には、まだ時間が必要ですが、戦略商品である大容量インクタンクモデルを優先的に増産していきます。
- 大容量インクタンクモデルの年間販売台数は、前年度を上回る、1,030万台を見込みます。
- 商業・産業IJPも、需要回復や新商品効果などもあり、第4四半期は、前年同期以上の売上収益を見込みます。
- 今後は、アナログ方式による集中印刷から、デジタル方式による分散印刷へのシフトが加速していくものと見込んでいます。
- 分散印刷へのニーズに応えるため、ラインアップの強化とソフトウェアを活用したサービスを充実し、市場のデジタル化を加速させ、事業成長を図ります。

- ビジュアルコミュニケーションは、教育向け需要は回復傾向にあるものの、オフィス向けプロジェクターの回復は遅れる見込みです。
- 費用コントロールを継続し、効率的に利益を上げられる事業体質へと転換します。

- ウェアラブル・産業プロダクトは、ウオッチ市場は引き続き厳しい環境が継続する一方で、ロボティクスソリューションズ、マイクロデバイス他は堅調な推移を見込みます。

2020年度 通期業績予想 | 事業セグメント別

EPSON
EXCEED YOUR VISION



20

- 先ほどご説明した前提に基づく、売上収益、事業利益のセグメント別内訳です。
- 以降のスライドで、セグメント別にご説明します。

		(億円)				
プリンティングソリューションズ	2019年度 実績	2020年度 10/29予想	2020年度 今回予想	対前期	対10/29 予想	
売上収益	7,086	6,800	7,000	-86	+200	
プリンター	4,825	4,850	5,030	+204	+180	
構成比 オフィス・ホームIJP	84%	87%	87%			
SIDM	7%	5%	5%			
その他	9%	8%	8%			
プロフェッショナルプリンティング	1,979	1,780	1,790	-189	+10	
構成比 商業・産業IJP	64%	69%	69%			
小型プリンター他	36%	31%	31%			
その他	282	170	180	-102	+10	
事業間売上収益	-1	0	0	+1	-	
セグメント利益	756	840	1,000	+243	+160	
セグメント利益率	10.7%	12.4%	14.3%			
◆ オフィス・ホームIJP販売動向 (社内管理値に基づき指標)		FY19 実績	FY20 10/29予想	FY20 今回予想		
YoY伸長率		+1%	-4%	-3%		
約、万台		1,570	1,500	1,520		
本体	販売数量					
	内 大容量インクタンクモデル	1,000	1,000	1,030		
	内 SOHO・ホーム向けI/Cモデル	530	470	460		
	内 オフィス共有IJP	40	30	30		
インク	売上収益 YoY伸長率	円貨	-8%	+2%	+6%	
		現地通貨	-5%	-	-	
オフィス共有IJP	売上収益	オフィス・ホームIJP内比率 ^{*2}	10%	10%	10%	

プリンター事業

- ◆ オフィス・ホームIJP
 - ・大容量インクタンクモデルは、販売台数増で増収
 - ・SOHO・ホーム向けインクカートリッジモデル本体の販売台数は減少するが前年度並みの売上収益
 - ・インクは増収継続
 - ・オフィス共有IJPは、本体は厳しい市場環境の中、着実に販売拡大
- ◆ SIDM
 - ・中国中心に販売減少

プロフェッショナルプリンティング

- ◆ 商業・産業IJP
 - ・完成品ビジネスは、COVID-19影響による市場停滞の中、第2四半期以降着実に回復
 - ・プリントヘッド外販ビジネスは、上期は軟調に推移も下期には新規顧客の増加に加え、既存顧客向けの販売が回復
- ◆ 小型プリンター
 - ・先進国中心に需要減少

その他

- ◆ PC販売特需が収束

*1 オフィス共有IJP：高プリントボリュームオフィス向けプリンターI/Cモデル、RIPS、IJJの本体・インク、スマートチャージなどの課金や有償サービスを含む
*2 FY20の商品区分変更に伴い、FY19を適及修正

- プリンティングソリューションズの各事業・商品の通期業績予想はご覧の通りです。
- 売上収益、セグメント利益ともに、通期予想は上方修正します。
- プリンター事業を中心に、インクの増収効果や本体価格の上昇などにより、セグメント全体で前年度から増益を予想しています。
- なお、通期のセグメント利益に占めるプリンター事業の割合は、8割弱となります。

2020年度 通期業績予想 | ビジュアルコミュニケーション ウェアラブル・産業プロダクツ



(億円)

ビジュアルコミュニケーション	2019年度 実績	2020年度 10/29予想	2020年度 今回予想	対前期	対10/29 予想
売上収益	1,833	1,390	1,370	-463	-20
セグメント利益	135	-20	-20	-155	-
セグメント利益率	7.4%	-1.4%	-1.5%		
◆ プロジェクターの販売動向 (社内管理値に基づく指標)					
			FY19 実績	FY20 10/29予想	FY20 今回予想
本体	販売数量	YoY伸長率	-9%	-30%	-31%
		約、万台	240	160	160

ビジュアルコミュニケーション

- ◆ プロジェクター
 - ・COVID-19影響に加え、FPD影響により市場縮小 (YoY▲35%程度)
 - ・費用構造の見直し、費用削減の徹底を継続

(億円)

ウェアラブル・産業プロダクツ	2019年度 実績	2020年度 10/29予想	2020年度 今回予想	対前期	対10/29 予想
売上収益	1,529	1,400	1,440	-89	+40
ウェアラブル機器	440	290	280	-160	-10
ロボティクスソリューションズ	212	240	270	+57	+30
マイクロデバイス他	929	890	910	-19	+20
事業間売上収益	-53	-20	-20	+33	-
セグメント利益	18	20	30	+11	+10
セグメント利益率	1.2%	1.4%	2.1%		

◆ ウェアラブル機器

- ・ウオッチで厳しい事業環境が継続

◆ ロボティクスソリューションズ

- ・堅調な需要が続く

◆ マイクロデバイス他

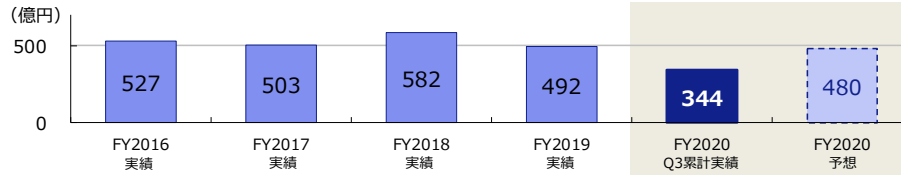
- ・堅調な需要が続く

22

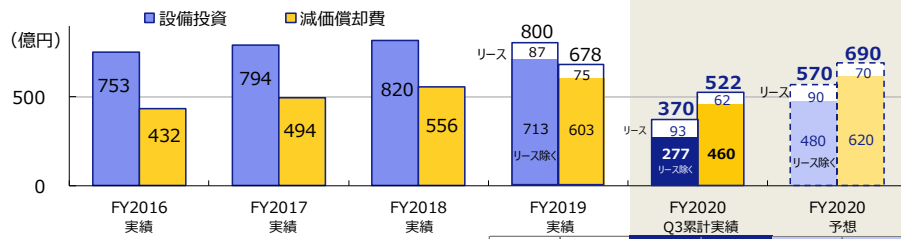
- ビジュアルコミュニケーション、および、ウェアラブル・産業プロダクツの予想はご覧の通りです。
- ビジュアルコミュニケーションは、プロダクトミックスの影響を反映して、売上収益の予想を下方修正したものの、セグメント利益の予想は変更ありません。
- ウェアラブル・産業プロダクツは、セグメント全体では売上収益、セグメント利益ともに上方修正しました。

主要費用・設備投資

研究開発費



設備投資・減価償却費

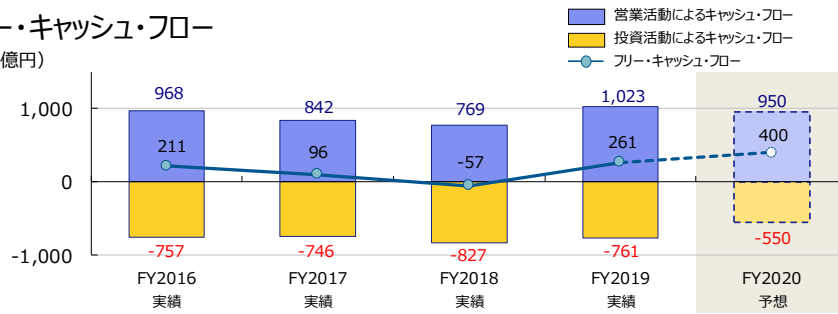


	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
プリンティングソリューションズ	435	377	202	285	280	380
ビジュアルコミュニケーション	141	117	62	96	100	130
ウェアラブル・産業プロダクト	147	103	61	77	120	110
その他・全社費用	75	79	43	62	70	70

FY2019実績からリースを含む

- 研究開発費、および設備投資、減価償却費の予想に変更はありません。
- 設備投資は、前年度から大幅な減少を見込みます。

フリー・キャッシュ・フロー
(億円)



主な経営指標

(%)	FY2016 実績	FY2017 実績	FY2018 実績	FY2019 実績	FY2020 予想
ROS *1	6.4	6.8	6.5	3.9	5.1
ROA *2	6.9	7.4	6.8	3.9	4.7
ROE *3	10.1	8.3	10.2	1.5	3.6

*1 ROS: 売上収益事業利益率 = 事業利益 / 売上収益

*2 ROA: 資産合計事業利益率 = 事業利益 / 期首・期末資産合計平均

*3 ROE: 親会社所有者帰属持分当期利益率 = 親会社の所有者に帰属する当期利益 / 期首・期末親会社の所有者に帰属する持分平均

- フリー・キャッシュ・フローおよび主な経営指標の予想になります。
- 利益の上方修正に伴い、フリー・キャッシュ・フローも上方修正し、400億円を予想します。

- ご説明のポイント
- 第3四半期実績
- 2020年度通期業績予想
- **株主還元**
- 持続的成長に向けた取り組み

■ 配当の基本方針

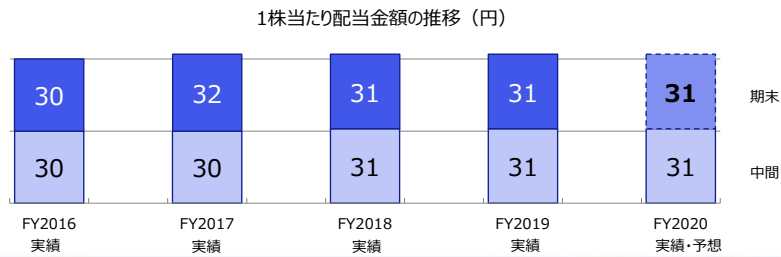
- 強固な財務構造の構築と、積極的な利益還元とに並行して取り組む
- 中期的には連結配当性向*40%程度を目標

*本業による利益を示す事業利益から法定実効税率相当額を控除した利益をベースに算出

■ 2020年度配当予想

- 2019年度と同額の1株当たり62円

■ 配当実績・予想



- こちらは、株主還元についてです。
- 予想に変更はありません。
- 2020年度の配当は、前年度と同額の、1株当たり62円の予想です。

- ご説明のポイント
- 第3四半期実績
- 2020年度通期業績予想
- 株主還元
- 持続的成長に向けた取り組み

■ 長期ビジョン「Epson 25」を見直すとともに、
新しい中期経営計画を3月中旬に発表

- エプソンの事業活動を通じて、社会課題の解決に貢献する
- New Normalに向けた変化を加速させる商品・サービスを提供
- 利益率をより重視した経営へ



28

- 続いて、持続的な成長に向けた取り組みについて、ご説明します。
- 新型コロナウイルスの感染拡大を契機に起こった大きな変化を捉え、戦略の見直しを進めてきました。
- 方向感に大きな変化はありませんが、環境変化をとらえ、取り組みを加速させていくため、新しい中期経営計画を3月に発表することにしました。
- 社会課題を起点とし、強みを生かしたイノベーションにより、持続可能な社会の実現に貢献していきます。
- 今後は、これまで「集中」していたオフィスでの業務や工場での製造が、より一層「分散」していくと予想しています。
- こうした社会のニーズをとらえ、さらには、変化を加速させる商品・サービスを提供していきます。
- また、新型コロナウイルスで打撃を受けた世界経済の回復には時間がかかること、不確実な状況が継続することが見込まれることから、利益率を重視した経営を進めていきます。

■ CDPの企業調査において、「気候変動」「水セキュリティ」で、最高評価の「Aリスト」企業に選出

- 2分野でAリストに選ばれた日本企業は17社のみ
- 環境負荷低減への取り組みが評価された



■ 複数拠点で、RBA監査のプラチナ認証*を取得

- 2019年に、レギュラー会員としてRBAに加盟
- RBAの行動規範に則り、CSR活動を推進してきた成果



拠点	主な生産品目	認定日
インドネシア	大容量インクタンクモデル、SOHO・ホーム向けインクジェットプリンター、オフィス共有インクジェットプリンター、SIDM、大判プリンター、スキャナー	2020/10/31
タイ	水晶デバイス	2020/12/5

*監査において、満点（200点）を取得した企業に与えられる

- 最後にESGに関する取り組みをご紹介します。
- エプソンは、CDPが実施する企業調査において、「気候変動」と「水セキュリティ」の2分野で最高評価となる「Aリスト」企業に選出されました。
- 環境配慮型の商品・サービスを提供し「循環型経済の牽引」を目指すエプソンにとって、お客様やパートナーなどのステークホルダーからの信頼獲得につながる、重要な評価だと認識しています。
- 2分野でのAリスト選定は、日本企業では17社のみであり、そのうちの1社に選ばれたことは光栄であると同時に、大きな責任を感じています。
- 引き続き、環境負荷低減に取り組んでいきます。
- また、複数の生産拠点で、RBA監査の「プラチナ認証」を取得しました。
- 2019年の加盟以来、QCDや事業継続マネジメントなどの強化に加えて、RBAの行動規範に則り、労働・安全衛生・環境・倫理などのCSR活動を推進してきた成果です。
- 複数拠点でプラチナ認証を取得したことで、より多くの商品を、RBAの規範を満たした拠点からお届けできるようになりました。
- 社会課題の解決を目指した事業活動は、新しい中期経営計画の柱となるものです。今後とも、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。
- 以上



補足資料

2020年度 第3四半期累計実績 | ハイライト

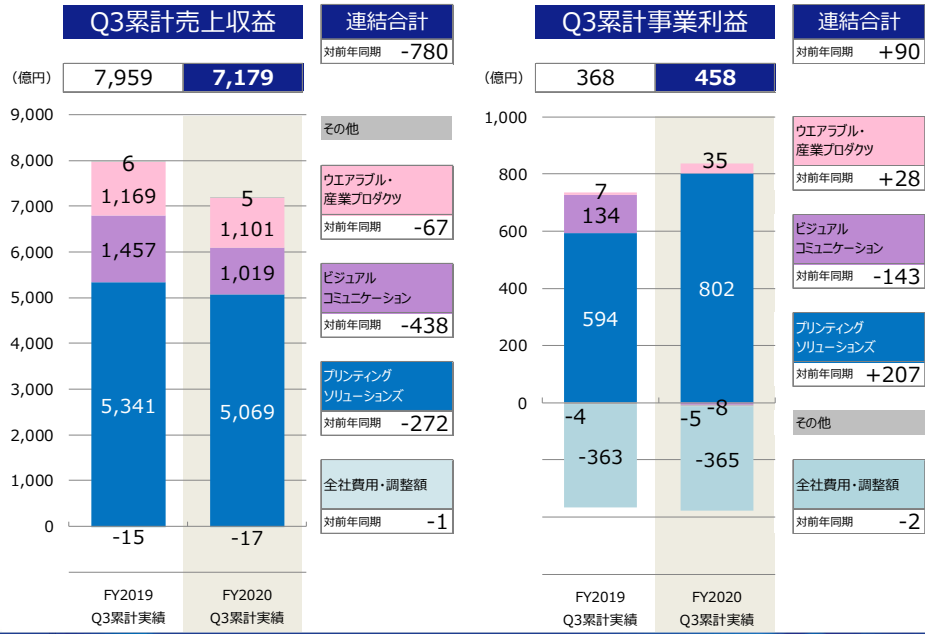
EPSON
EXCEED YOUR VISION

	2019年度		2020年度		前年同期比	
	(億円)	Q3累計実績 %	Q3累計実績	%	増減額	増減率
売上収益	7,959		7,179		-780	-9.8%
事業利益	368	4.6%	458	6.4%	+90	+24.5%
営業利益	370	4.6%	339	4.7%	-31	-8.4%
税引前利益	364	4.6%	298	4.2%	-66	-18.2%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	245	3.1%	202	2.8%	-42	-17.3%
EPS*1 (円)	70.51		58.66			
為替レート (円、指数)	USD	¥108.65	¥106.06			
	EUR	¥121.08	¥122.33			
	その他通貨*2	100	92			

*1 EPS: 基本的1株当たり当期利益
*2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて
加重平均した値について、前年同期を100とした指数

前年同期に対する 為替影響額 (億円)	USD	EUR	その他 通貨合計	合計
売上収益	-55	+16	-111	-150
事業利益	+11	+11	-65	-43

2020年度 第3四半期累計 | 事業セグメント別



(億円)

プリンティングソリューションズ	2019年度 Q3累計	2020年度 Q3累計	対 前年同期	為替 影響額
売上収益	5,341	5,069	-272	-124
プリンター	3,620	3,690	+69	
構成比 オフィス・ホームIJP	84%	87%		
SIDM	7%	5%		
その他	9%	8%		
プロフェッショナルプリンティング	1,509	1,264	-245	
構成比 商業・産業IJP	64%	68%		
小型プリンター他	36%	32%		
その他	211	115	-96	
事業間売上収益	-0	-0	-0	
セグメント利益	594	802	+207	-40
セグメント利益率	11.1%	15.8%		

(億円)

ビジュアルコミュニケーション	2019年度 Q3累計	2020年度 Q3累計	対 前年同期	為替 影響額
売上収益	1,457	1,019	-438	-13
セグメント利益	134	-8	-143	+0
セグメント利益率	9.2%	-0.8%		

(億円)

ウェアラブル・産業プロダクト	2019年度 Q3累計	2020年度 Q3累計	対 前年同期	為替 影響額
売上収益	1,169	1,101	-67	-14
ウェアラブル機器	350	210	-140	
ロボティクスソリューションズ	153	212	+58	
マイクロデバイス他	708	695	-12	
事業間売上収益	-42	-16	+26	
セグメント利益	7	35	+28	-5
セグメント利益率	0.6%	3.2%		

主要製品の販売動向

本資料は、エプソン内部の管理値に基づく指標です。伸長率はYoY

*1 オフィス共有IJP：高プリントボリュームオフィス向けプリンター
I/Cモデル、RIPS、I/Iの本体・インク。スマートチャージなどの課金や有償サービスを含む

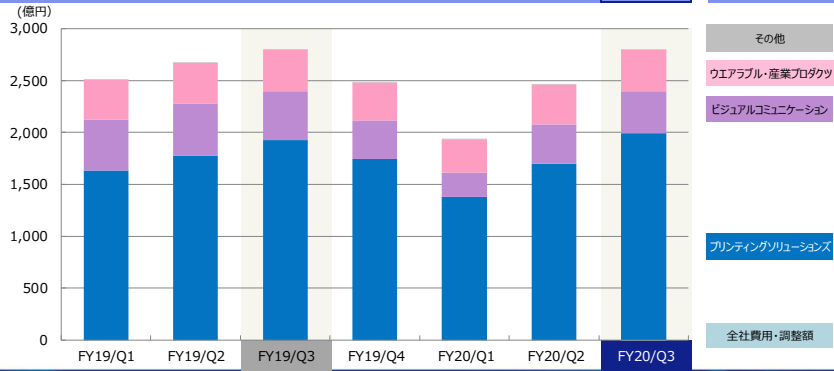
*2 FY20の商品区分変更に伴い、FY19を遡及修正

				FY2019 通期実績	FY2020 Q1実績	FY2020 Q2実績	FY2020 Q3実績	FY2020 通期予想
			USD	108.74	107.54	106.16	104.48	105.00
			EUR	120.85	118.39	124.10	124.51	123.00
プリンティング ソリューションズ	オフィス・ホーム IJP 本体	売上収益（円貨）	伸長率	-0%	-14%	+2%	+17%	+10%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	+4%	-8%	+5%	+22%	-
		本体数量	伸長率	+1%	-17%	-9%	+2%	-3%
		本体数量	台数	約1,570万台	-	-	-	約1,520万台
		内 大容量インクタンク モデル	台数	約1,000万台	-	-	-	約1,030万台
		内 SOHO・ホーム向け I/Cモデル	台数	約530万台	-	-	-	約460万台
		内 オフィス共有IJP	台数	約40万台	-	-	-	約30万台
	オフィス・ホーム IJP インク	インク売上収益比率 インク÷(本体+インク)	構成比	48%	-	-	-	47%
		売上収益（円貨）	伸長率	-8%	+15%	+7%	+5%	+6%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	-5%	+19%	+8%	+6%	-
	オフィス共有 IJP*1 本体+インク	オフィス・ホームIJP内 売上収益比率*2	構成比	10%	9%	10%	9%	10%
		売上収益（円貨）	伸長率	-19%	-43%	-16%	-19%	-15%
SIDM 本体	売上収益（現地通貨）	伸長率	-16%	-40%	-15%	-18%	-	
	本体数量	伸長率	-16%	-39%	-16%	-22%	-15%	
ビジュアル コミュニケーション	プロジェクター 本体	売上収益（円貨）	伸長率	-9%	-52%	-24%	-13%	-25%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	-6%	-50%	-24%	-12%	-
		本体数量	伸長率	-9%	-57%	-32%	-20%	-31%
		本体数量	台数	約240万台	-	-	-	約160万台

四半期 売上収益推移 | 事業セグメント別

EPSON
EXCEED YOUR VISION

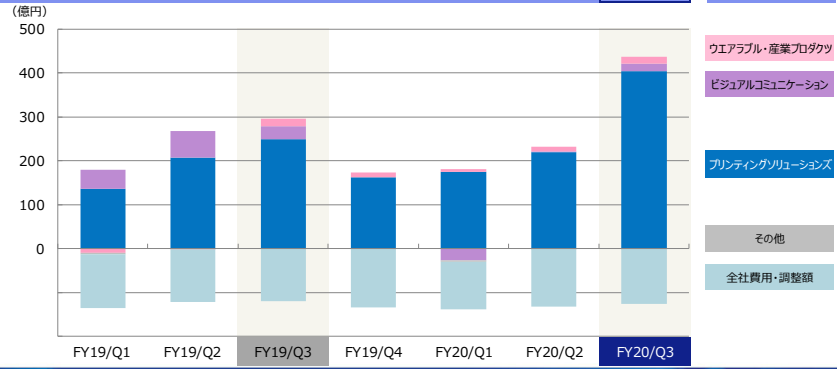
為替レート (円)	USD	109.93	107.31	108.72	109.00	107.54	106.16	104.48	-4.24
	EUR	123.54	119.34	120.35	120.18	118.39	124.10	124.51	+4.16
売上収益 (億円)	FY19/Q1	FY19/Q2	FY19/Q3	FY19/Q4	FY20/Q1	FY20/Q2	FY20/Q3	対前年同期	
プリンティングソリューションズ	1,632	1,780	1,929	1,744	1,380	1,698	1,990	+61	
ビジュアルコミュニケーション	492	496	468	375	235	376	407	-61	
ウェアラブル・産業プロダクト	381	393	394	360	318	388	394	+0	
その他	2	2	2	2	1	2	2	-0	
全社費用・調整額	-11	-7	3	-6	-3	-6	-6	-10	
連結合計	2,496	2,664	2,798	2,476	1,932	2,459	2,788	-10	



四半期 事業利益推移 | 事業セグメント別



為替レート (円)	USD	109.93	107.31	108.72	109.00	107.54	106.16	104.48	-4.24
	EUR	123.54	119.34	120.35	120.18	118.39	124.10	124.51	+4.16
事業利益 (億円)		FY19/Q1	FY19/Q2	FY19/Q3	FY19/Q4	FY20/Q1	FY20/Q2	FY20/Q3	対前年同期
プリンティングソリューションズ		136	207	250	162	175	220	405	+154
ビジュアルコミュニケーション		43	61	29	0	-27	1	17	-12
ウェアラブル・産業プロダクト		-10	-0	17	11	6	12	15	-1
その他		-2	-1	-1	-0	-2	-1	-1	-0
全社費用・調整額		-123	-120	-118	-133	-109	-131	-125	-6
連結合計		45	146	176	40	43	102	311	+135



海外売上収益・従業員数

海外売上収益

為替レート (円)	USD	109.93	107.31	108.72	109.00	107.54	106.16	104.48	-4.24
	EUR	123.54	119.34	120.35	120.18	118.39	124.10	124.51	+4.16

売上収益 (億円)	FY19/Q1	FY19/Q2	FY19/Q3	FY19/Q4	FY20/Q1	FY20/Q2	FY20/Q3	対前年同期
米州	745	717	712	753	598	719	733	+21
欧州	479	537	593	529	397	500	587	-6
アジア・オセアニア	725	758	744	585	495	739	797	+53
海外売上収益計	1,951	2,014	2,051	1,869	1,490	1,959	2,119	+68
連結合計	2,496	2,664	2,798	2,476	1,932	2,459	2,788	-10

構成比	FY19/Q1	FY19/Q2	FY19/Q3	FY19/Q4	FY20/Q1	FY20/Q2	FY20/Q3
米州	29.9%	26.9%	25.5%	30.4%	31.0%	29.3%	26.3%
欧州	19.2%	20.2%	21.2%	21.4%	20.6%	20.4%	21.1%
アジア・オセアニア	29.1%	28.5%	26.6%	23.7%	25.6%	30.1%	28.6%
海外売上収益計	78.2%	75.6%	73.3%	75.5%	77.2%	79.7%	76.0%

従業員数

期末従業員数 (人)	2018/3末	2018/12末	2019/3末	2019/12末	2020/3末	2020/12末	対前期末
国内	19,436	19,614	19,456	19,789	19,558	19,620	+62
海外	56,955	58,753	57,191	58,052	56,050	62,618	+6,568
連結合計	76,391	78,367	76,647	77,841	75,608	82,238	+6,630

主な業績指標

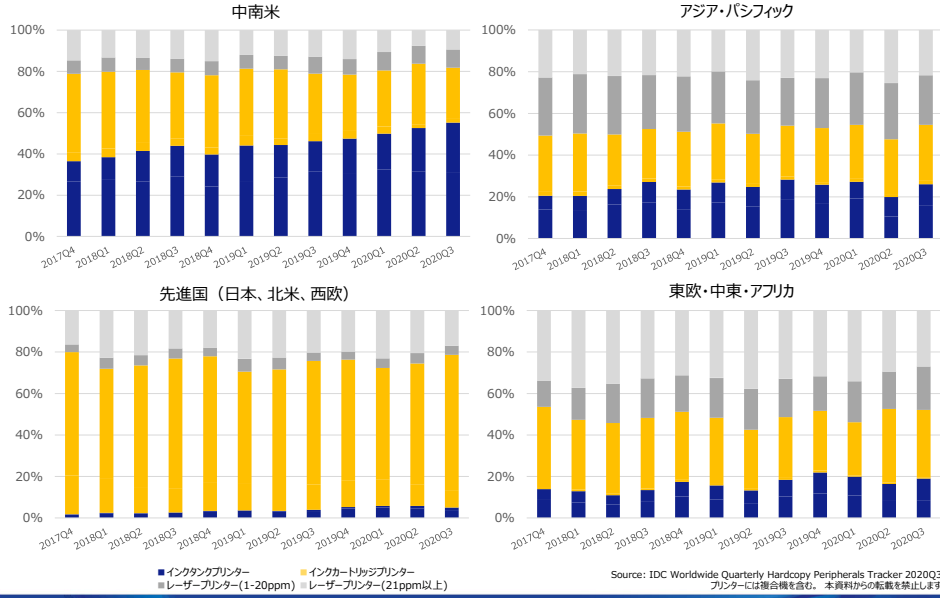


(億円)						(億円)				
	項目	FY2018 実績	FY2019 実績	FY2020 予想	FY2021 第2期中計目標	項目	FY2018 実績	FY2019 実績	FY2020 予想	Epson 25 第2期3年累計 目標
為替レート	USD	110.86	108.74	105.00	110.00	USD	110.86	108.74	105.00	110.00
(円)	EUR	128.40	120.85	123.00	125.00	EUR	128.40	120.85	123.00	125.00
プリンティング	売上収益	7,236	7,086	7,000	7,800	営業CF	769	1,023	950	3,700程度
ソリューションズ	セグメント利益	945	756	1,000	-	FCF	-57	261	400	1,700程度
ビジュアル	売上収益	2,033	1,833	1,370	2,250					
コミュニケーション	セグメント利益	212	135	-20	-	研究開発費	582	492	480	積極的に投下
ウェアラブル・	売上収益	1,634	1,529	1,440	1,950	設備投資	820	713	480	2,000程度
産業プロダクト	セグメント利益	55	18	30	-			800*	570*	
その他	売上収益	9	9	10	-					*オペレーティングリース含む
	セグメント利益	-5	-5	-10	-					
全社・調整額	売上収益	-16	-22	-20	-					
	セグメント利益	-502	-496	-500	-					
連結合計	売上収益	10,896	10,436	9,800	12,000					
	事業利益	704	408	500	960					
	ROS	6.5%	3.9%	5.1%	8%					
	ROE	10.2%	1.5%	3.6%	継続的に 10%以上					

大容量インクタンクモデルの浸透（数量構成比）



A4サイズプリンタータイプ別市場推移（暦年）



Color Control Technology	商業・産業印刷における色再現性を高めるカラーマネジメント技術
Epson Connect	エプソンの商品・サービスを対象としたモバイル・クラウドサービス
I/C	Ink Cartridge, インクカートリッジ
IJP	Inkjet Printer, インクジェットプリンター
LIJ	Line Inkjet Printer, 高速ラインインクジェット複合機
LP	Laser Printer, レーザープリンター（複合機含む）
RIPS	Replaceable Ink Pack System, 大容量インクパックモデル
SIDM	Serial Impact Dot Matrix Printers
SOHO	Small Office Home Office, 小規模オフィス・ホームオフィス
オフィス共有IJP	商品カテゴリの1つ。高プリントボリュームオフィス向けプリンター。I/Cモデル,RIPS,LIJを含む
フォト	フォト、グラフィックス、プルーフ、CAD印刷向け大判プリンターなどが含まれる
商業・産業IJP	商品カテゴリの1つ。商業・産業用途向け大判インクジェットプリンター、プリントヘッド外販ビジネスを含む
大容量インクタンクモデル	エコタンク搭載インクジェットプリンター
大容量インクモデル	大容量インクカートリッジモデル、大容量インクタンクモデル、大容量インクパックモデル（RIPS）、高速ラインインクジェット（LIJ）の総称
分散印刷	同一内容の印刷物を複数のプリンターを用いて印刷する方法
3LCD	プロジェクター方式の1つ。液晶パネル3枚を使う方式
FPD	Flat Panel Display, フラットパネルディスプレイ
OLED	Organic Light Emitting Diode（有機EL）
高光束プロジェクター	交換レンズ機能付き高輝度プロジェクター
WP	ウェアラブル機器事業
MD他	マイクロデバイス他事業

イノベーション	インクジェットイノベーション	ビジュアルイノベーション	ウェアラブルイノベーション	ロボティクスイノベーション		
セグメント	プリンティングソリューションズ	ビジュアルコミュニケーション	ウェアラブル・産業プロダクト			
事業・主要製品	プリンター		プロシキター	ウェアラブル機器	ロボティクスソリューションズ	マイクロデバイス他
	オフィス・ホームIJP [大容量インクタンクモデル] [オフィス共有] [SOHO・ホーム] [大容量インクパックモデル(RIPS)] インカードリッジモデル ラインインクジェット複合機 (LD) オフィス向けインカードリッジモデル	高光束 超短焦点 スタンダード ホーム 小型 ライティング スマートグラス	エプソンブランド TRUME オリент ムーブメント セイコービジネス オプション	スカフ 6軸 ICハンドラー	水晶 EPSON EXCEED YOUR VISION JAPAN 半導体 微細合金粉末 表面処理加工	
	プロフェッショナルプリンティング					
	商業・産業IJP 小型プリンター他 フォト サイネージ テキスタイル ラベル ヘッド外観					
	PC他					
エプソンダイレクトPC						

EPSON
EXCEED YOUR VISION